

芸術の秋を彩る 町芸術文化祭

今年も盛況裡に終る



▲音楽発表会(小学生による合唱)

芸術文化に親しむ季節を迎え、老若男女を問わず、地域の人々皆さんの、年に一度の芸術文化の発表の場である町芸術文化祭が、去る10月29日から11月6日まで、大洗文化センターで盛大に開催されました。

年々、盛況の度を増す芸術文化祭も今年で第9回目と回を重ねてまいりましたが、地域文化の活発な交流とその向上が目みえ、関係者を喜ばせています。

発表会は、十月二十九日の音楽発表会をかわりに十一月三日は日本舞踊、十一月六日には、午前の部 吟詠剣詩舞、午後の部 民謡民舞と各発表会が十一月三日から六日までは、書



▲消費生活展(大洗くらしの会)



▲書道展(学校の部)

道、美術、写真、詩歌、俳句、生花の展覧会が開催されました。十一月三日文化の日、早朝から快晴に恵まれ芸術の秋にふさわしい日和となりました。大ホールでは、日本舞踊の発表会を始め、展覧会と同時に、句会、趣味のコーナー、消費生活コーナー、世界人権宣言35周年記念・人権啓発PRコーナー、アマチュア無線コーナー、郵便コーナー、電話展が開かれ、野外広場では、商工業展、お祭り広場が開かれるなど、文化センターを中心に多くの町民の皆さんで賑わいを見せました。また恒例による展示部門入賞者(三十九名)の授賞式並びに昭和五十八年度大洗町文化功労者の表彰式も行われました。今回の展覧会の出品総数は八〇二点に達し、前回は上回りました。第九回芸術文化祭も関係者各位の尽力により、盛況裡に終了することができ厚くお礼申し上げます。



▲茶会



▲いけばな展

また、昭和五十八年度文化功労者には、書道の振興に貢献されている楊勝昌氏が表彰されました。益々のご精進を期待いたします。最終日の六日には、展覧会に加え吟詠剣詩舞、民謡民舞の発表会、茶会(三社中)が開かれました。当日は、芸術文化祭の閉幕をおしむかのように早朝から雨模様となり入出が心配されましたが、降雨にもかかわらず多くの方々の参加があり大変盛り上りをみせました。

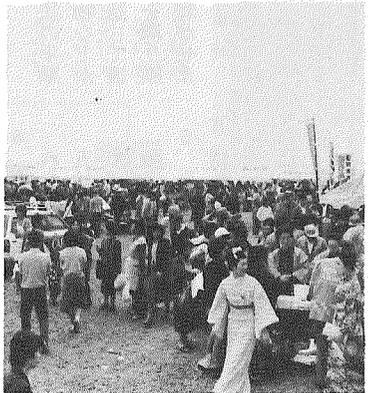
今回の芸術文化祭の発表・展示部門の観覧者は約九、八〇〇人を数え盛況のうちに終了いたしました。芸術文化祭も来年は十歳を迎えることとなりますが、町民総参加による盛大な祭典となるよう期待いたします。



▲お祭り広場(ラジオ大会)

- 書道の部 八木 妙子 写真の部 加部 東 肇
長久保 悦子 鹿島 淑子 加部 東 肇
小松崎 恒子 大川 まち子 海野 倉造
佐野 はな子 福地 喜千夫 飛田 哲男
小林 清美 美術の部 荻沼 清一
関根 美子 佐藤 正明 永田 金四郎
大塚 悦子 黒沢 金吾 東岡 金四郎
酒泉 滯子 今関 美代 詩歌の部
名越 美佐子 川上 善央 酒井 恭子
小林 俊一 江口 順造 三村 住江
秋山 庄兵衛 川上 登志子 石崎 保子
川上 淑子 真家 護 関根 秀子
畠 喜則 大場 さい

第9回芸術文化祭展示部門の入賞者は次のとおりです



▲お祭り広場(即売会)



▲日本舞踊



▲民謡民舞(大洗子供ばやし保存会)

昭和58年度

表

彰

原子力安全功労章

元 大 洗 町 長 加藤 清氏

明治38年12月28日生(77歳)
大洗町磯浜町一、二七七番地



科学技術庁では、全国の原子力功労者に贈る本年度「原子力安全功労章」の表彰者を、去る10月19日に発表しましたが、本県関係個人の部では、加藤清(元大洗町長)が選ばれ、10月26日の「原子力の日」に東京・農林年金会館で、安田隆明科学技術庁長官から表彰されました。

加藤清さんは、申し上げるまでもなく、当町の初代町長として就任されて以来、昭和53年12月11日の退任まで、6期24年の間、地方自治の確立と大洗町の建設のため、誠におめでとございました。

社会貢献表彰

永年に亘り、よりよき社会の建設に尽くされ、たたえられるべき功労を挙げながらも社会的に報いられることの少ない個人・団体等を、毎年全国的に表彰している、財団法人・日本顕彰会(笹川良一会長)の昭和58年度社会貢献表彰に、当町から米川昇作(三氏(大貫町32-1)と関根厚(三氏(磯浜町58)のお二人が、功績を認められ表彰されました。

磯浜漁業協同組合長 米川昇作氏

大正9年11月11日生(63歳)
大洗町大貫町三二―一番地



古くから漁業の町として栄え発展してきた当町において、米川さんは戦後間もない昭和22年、磯浜漁業会総代になられて以来、磯浜漁業協同組合理事・同組合長・茨城県漁業協同組合連合会理事・茨城県漁業調整委員・日本水難救済会大洗救難所副所長・北部太平洋海区まき網生産調整組合理事・茨城県信用漁業協同組合連合会理事等、数多くの要職に就かれ、漁業の振興一

元 大 洗 町 立 中 学 校 長 関根 厚氏

明治42年8月25日生(74歳)
大洗町磯浜町五五八番地



関根さんは昭和4年から昭和44年、町立第一中学校長を最後に退職されるまで、40年の永きに亘って教職に就かれ、うち当町では、昭和22年の大貫小の教員を振り出しに、大貫小・一中の校長を歴任、12年間、町の子弟の教育に専念され、退職後は公德

青年の船中国訪問

大洗から三名が参加

前 島 寿子

大洗町磯浜町九九七―

「友情は海原を越えて」をテーマとする茨城県青年の船員として大洗町から三名の青年が参加され、十月十九日鹿島港を出航、天津、北京、大連を訪問し中国青年との交歓会を行ない、また天安門、故宮博物館、万里の長城などを見学し三十一日日立港に帰港しました。

松 沢 志津子

大洗町大貫町八四三

幸運にも、今回「青年の船」に乗ることができた。海外旅行は初めてであり、外から日本を見、中国を知る貴重な機会だった。

杉 山 幸雄

大洗町神山町九三四―

私たちが見た中国はほんの一部に過ぎない。整然とした道路や高層住宅の立ち並ぶ都市。日本と変わらない田園風景の見える田舎。街角で「你好」と呼びかけると、大抵の人が挨拶を返してくれた。あの素朴さが忘れられない。

健康相談室

老人ボケ

老人ボケの簡単な見分け方は、老人が朝ごはんを食べてもすぐ忘れてしまふ、人と逢って話をした後すぐ忘れてしまふ、用事を頼んでも忘れてしまふ、と云う物忘れがあつたら老人ボケです。物忘れがひどくて、例えば昼と夜の区別がつかない、散歩に出ても帰る自分の家が判らない、自分の家のトイレがどこか判らなすまごまごする、夜起きて外を歩き廻る等があれば老人痴呆です。これは脳血管障害のある人に多く出ます。然し一部では痴呆にならず、うつ病になる人もあります。つまり元気な



長城に雨が降るのは、一年を通して、数回だけです。幾つかの顔を持つ長城の一番素晴らしい時に私たちは遭遇したのです。又、もう一度長城へ登り違った顔を見ることが出来るのを楽しみにして、この研修旅行を終える事ができました。

善意の寄付



町社会福祉協議会善意銀行に、昭和58年4月以降の寄付が寄せられました。

- 一金拾万円也 国分寺市本多二一七―二 坂本 誠殿
- 一金四万七千五百八十四也 水戸市住吉町 ヤクルト販売株式会社殿
- 一金五万八千六百十也 勝田市中根字六ツ野 株式会社まる美屋殿
- 一金二万円也 土浦市東中貫一―三 カスミストアグループ殿
- 一金一万円也 大洗町磯浜町八二四番地 飯田 薫殿
- 一金二万円也 大洗町大貫町五三〇番地 十期会代表 松岡卓示殿
- 一金一万円也 大洗町大貫町

坂本誠殿よりのご寄付は、亡き養母さまが大洗町在住中お世話になったお礼に、町社会福祉協議会活動のなかで老人福祉、身体障害者福祉のため役立ててという趣旨によるものです。ヤクルト販売株式会社殿よりのご寄付は、同社が「みのりある福祉を築くために、できることをできる」ということで福祉ヤクルト運動を展開し、売上金の六パ

消防だより

呼吸が止まったらすぐ人工呼吸を

一、呼吸が止まってしまったら救急車が来るのを待ってはいけません。その間の三―四分が生死のわかれめになるからです。

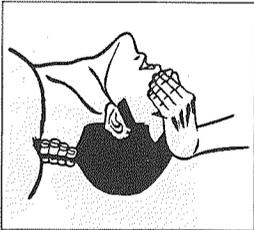
呼吸停止からの時間的な蘇生率は次のとおりです。

- 1分後 97%
- 2分後 90%
- 3分後 75%
- 4分後 50%
- 5分後 25%
- 10分後 0%

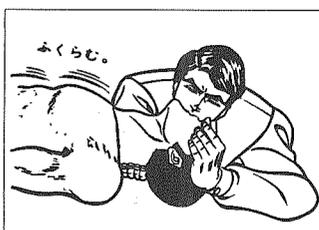
二、口対口の人工呼吸法の手順
1、口の中に吐いた物などがあらかどうかを確認して清拭したり、異物等を取り除いてから仰向けに寝かせます。

2、一方の手を首の下に入れ頭を後方にそらせ、もう一方の手は額をおさえ下げるようにし、頭を後に十分そらせ気道を開きます。

3、額にのせた手の親指と人さし指で鼻をつまんで呼吸がもれないように大きく口をあけて傷病者の口をふさぎ



7、呼吸が再開するか、又は医師や救急隊員に引き継ぐまで続けます。



4、最初の四回ぐらいは、これを強く速く反復し、以後五秒に一回の割合で繰り返す。(吹き込む量は普段の呼吸より多目にする。)

5、乳児や幼児は口と鼻を一緒にふさいで三―四秒に一回の割合で吹き込む。(吹き込む量は少なくします。)

6、吹き込みが終わったらすぐに口を離して顔を傷病者の胸の方に付けて、胸の動きを見ながら傷病者の吐き出す息を頬で感じとります。

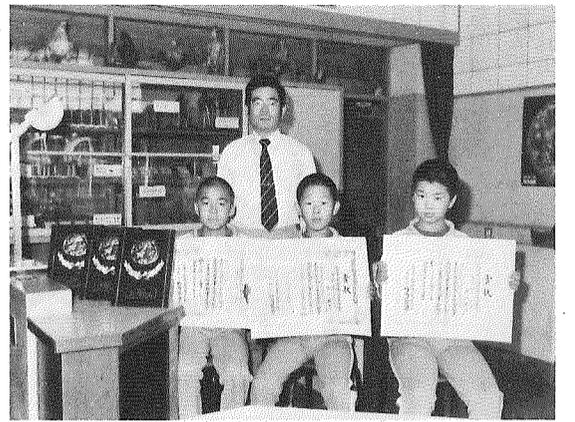


町社会福祉協議会においては、これらの善意と「まごころ」をい

かし、老人福祉、身体障害者福祉、母子家庭の福祉、交通遺児家庭の福祉等地域福祉活動の推進をはかり、豊かで住みよい社会をつくるため、福祉のまちづくりに努力してまいります。

今後も町民の皆様による社会福祉協議会活動、善意銀行活動、ボランティア活動に対するご理解とご協力をお願い致します。

星の観測器具を改良 県発明工夫展で特選 夏海小の野口・深作・幸田の3君



去る10月22日から25日まで、水戸市伊勢甚百貨店で開かれた「第27回・県発明工夫展」(県、県教委、発明協会県支部主催)で、当町夏海小学校(小野瀬隆校長)の5年生、野口博志・深作昌成・幸田勝也の3君が共同製作した、星の観測器具改良型が見事特選の栄冠をかちとり、発明協会県支部長賞(竹内藤男知事)を受賞しました。

これは、5年理科の学習の中で月や星の観測がありますが、教科書の観測箱では月が少し動いても観測不能となり、星の場合は月よりも暗いので一層観測に不便となります。そこで、5年担任の高橋健彦先生がその改良を夏休みの宿題として出したところ、前記、仲よし3人が優れた観測器を共同で製作してきました。

これによると①箱型観測器を円筒型に変え見易くなった。②固定された箱型から動きのある円筒型により、方位角と高さの角度が読みとれ、星の出から入りまで観測できる。③ミニランプの取付けにより、目盛がハッキリ読みとれるなど、観測効果が大きく、高橋先生は早速これを使って夏休みの後半に2回、10月に2回、父兄の協力を得て生徒たちと神山集落センターに泊り込み観測しましたが、結果は上々でした。

そこで、10月15日、水戸・浜田小学校で行なわれた、発明工夫展

水戸地区展に出品したところ、思ってもかけない金賞を受賞し、地区推選で県発明工夫展に出品特選となったものです。

この朗報は早速、朝会で校長先生から全校生徒に紹介され、皆んなで喜びを分かちました。

なお、この結果来年3月開催の第42回全日本小学生発明工夫展(毎日新聞社主催)に推せん出品されることになっており、3月中旬の発表が楽しみです。

高橋先生は「また来年度もあります。他の生徒たちにとって、これからの大きな励みになりました」と話していました。

街の明るい話題

やったあ！ 関根君 一流企業に就職決定 身障者雇用集団選考会



「内定の電報を受けとったときは、今までの苦労の総てが喜びに変わり、やったあ！という気持ちで一杯でした」と、日立エンジニアリング株式会社の内定電報と採用決定通知を神棚からとり出して見せた、関根君(三毛君)磯浜町294(二丁目1の下)は喜びを内におさえながらもこやかに話してくれました。

今春、東京電機大学を卒業した関根君は県立大洗高校の一期生、聴覚障害で幼稚園のころから補聴器に頼る生活を強いられ、学校の授業も良く聴きとれず、それを克服するため勉強は殆んど独学同様、家でも暇さえあれば勉強に打ち込む生活が続きました。そのため

第2回 町民卓球大会開かれる

町民の体力づくりと卓球の普及を図るために、町体育協会卓球部(岩井忍部長)による第二回町民卓球大会が、去る11月6日一休中体育館で盛大に開催されました。

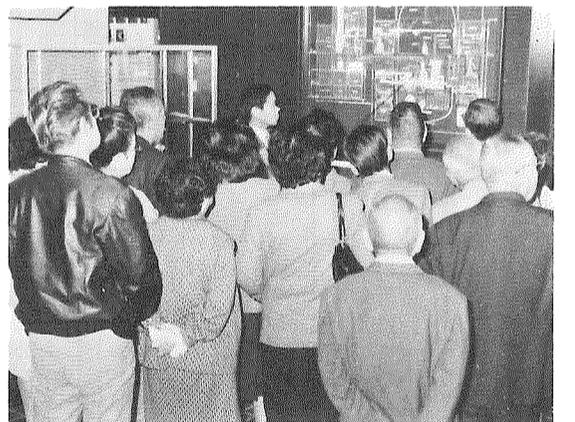
大会は男子の部58名、女子の部52名が参加出場し、午前9時、開会に当り、竹内町長より激励の挨拶があり、さっそく各卓球台に分かれ、日頃の練習の成果を十二分に発揮し、各試合ごとごやかななかにも激しい闘志で熱戦をくりひろげていました。

試合の結果は次の通りです。

- 男子の部
- 1位 清宮洋一(下宿)
 - 2位 塚田真司(南清水)
- 女子の部
- 3位 野村邦夫(仲町)
 - 1位 関根典子(永町)
 - 2位 岸和田浩美(永町)
 - 3位 原裕美(祝町)



10/26 “原子力の日” 地域の皆さん施設を見学



10月26日は「原子力の日」です。この日に因んで、原子力開発の拠点的研究施設を有する当町では地域の皆さんに原子力についての認識を深めていただくことと、同日、町内に所在する原子力4事業所の見学会を一般公募により行ないました。

当日、定刻9時に役場前に集合した47名の皆さんを乗せたバスは、例年どおり、日本核燃料開発KKの見学から始まりました。

会社では、宗光常務の概況説明のあと核燃料の研究施設を見学しました。

続いて、動燃・大洗工学センターでは安藤管理部長から、原子力開発の必要性から動燃の業務内容にいたる説明と映画、PR館の案内等があり、昼食後、午後からは東北大学材料試験炉利用施設で茅野助教をはじめ、各研究者から研究内容の易しい解説等があり、更に、原研・大洗研究所では、新谷管理部長から施設の概況と安全性の問題などについて懇切な説明があり、原子炉・廃棄物処理施設など主要施設や施設内随一の景勝

明日の大洗町を考える 街づくりシンポジウムを開催



去る10月26日午後2時から、大洗文化センター大会議室で「明日の大洗町を考える」をテーマに、街づくりシンポジウム(公開討論会)が開催されました。

これは、古くから観光の町、漁業の町として発展してきた当町

が、今や、北海道との間にカーフエリーの就航をめざし、大洗港の整備を急ピッチに進め、また、併行して国鉄鹿島線の建設や新設大洗駅周辺の区画整理事業等々、町の様相を一変するような大規模プロジェクトと取り組み、更には、

この様ななかで、地元の人達にも知恵を出し合ってもらい、街づくりに積極的に参加してもらおうと、大洗町・町商工会・財団法人常陽産業開発センターが共催して開催したものです。

当日、定刻には町内各種団体の代表的な人たちに、一般の参加者もまじえ約130名の町民の方々が参加し会場は満席となり、竹内町長をはじめとするパネラーにより、パネルディスカッションに入りました。パネラーはそれぞれの立場で、町財政・環境整備、社会教育、公德教育、商業近代化対策事業等の問題や、若年人口の減少

善意の奉仕で 松の剪定作業

去る11月3日文化の日、大洗文化センター周辺では、芸文祭、産業祭が華やかに催されておりましたが、文化センター裏庭では一人の町民の方が黙々と松の庭木の剪定作業をおこなっていました。

この方は榎本正七(せし)さん(磯浜町409)で、町が誇る立派な施設が、いろいろな方々に利用していただいているのに、松の庭木を剪定する作業は、きれいな松の庭木をみながら「これからは、きりぎりすの音が聞きたい」と話しておられました。

作業は11月3日～5日までの3日間おこない、きれいな松の庭木をみながら「これからは、きりぎりすの音が聞きたい」と話しておられました。



▲剪定作業に余念のない榎本さん

寄附

- 一、五万円也
- 大洗町磯浜町三一八番地
丑寅金代表 関根康弘殿
- 大洗町中央公民館図書室の
充実強化費の一部として
- 一、桜の樹木 十三本
- 大洗町大貫町二六二番地
高柳清家殿
- 大貫集落センター遊園地周
辺の美化のため

